

いまだどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

教科書採択

脱自虐史観のスタンスを貫く教科書で
どのような人材が育っていくか期待



来春から使われる歴史教科書の採択が各中学校によって行われた。注目を集めていた「新しい歴史教科書をつくる会」主導の扶桑社版歴史教科書を、京滋で初めて彦根市の県立河瀬中学校が採択した。県教育委員会は「自国の歴史への理解が深まり、地域の歴史を学習する河瀬中の教育の特色に合っている」と、採択の理由を説明している。

しかし、この扶桑社版の歴史教科書に対し、「アジアへの侵略を正当化している」と国内で批判が高まっている他、中国や韓国も「歴史を歪曲している」と問題視している。筆者は市販されている扶桑社版歴史教科書と公民教科書を読んでみたが、かなり良い教科書に思えた。自分が使ってきた教科書とは違い、読み進めるごとに感覚的に歴史の流れをつかむことができ、今の中学生が羨ましいとさえ思う。またインターネットや図書館、そしてフィールドワークで自主的に歴史を探究することを促しており、歴史を学ぶに当たって大切な「自発的に調べる」という姿勢を示しているところも良い。問題とされている日本のアジア進出から敗戦、東京裁判あたりのくだりは、「アジアへの侵略を正当化している」というより、日本が戦争に至った経緯を流れて把握させるよう、実によく配慮されていると感じられた。

残念ながら他社の歴史教科書は今のところ一部しか読んでいないが、自虐史観にとらわれたり、教育そのものよりも日本政府の外交を配慮したと思われる箇所が散見され、疑問に思う。例えば「南京大虐殺」と言われている事件の犠牲者数や、「日本軍による従軍慰安婦の強制連行」など、見解が統一されていない記述を、なぜ義務教育で取り上げる必要があるのか? 歴史教育において、日本を美化する嘘を教える必要は全くないと思うが、日本人であることに誇りを持ってものではあって欲しい。筆者は一刻も早く日本人が自虐史観だけにとらわれることなく、アジア、そして世界の国々と対等に接し、未来を創生できる人材を育てられるような歴史教育を切望している。

危険な外来魚
琵琶湖と人におよぼす害は計り知れず!!

外来種の魚による生態系破壊が深刻な琵琶湖。今度は彦根市の滋賀県水産試験場によって肉食魚・ピラニアが捕獲された。ピラニアは現在、観賞用として国内を流通しており、おそらく誰かが飼っていたものが何らかの理由で琵琶湖に放流されたことと見られている。アマゾン川など南米の熱帯地方が原産のピラニアは越冬が難しいと考えられているが、鋭い歯で人を襲うかもしれない、生態系の破壊に加えて、琵琶湖でレジャーを楽しむ人を脅かす事件に発展する可能性もある。最近ヘビやサソリなど、危険な外来種生物を放したり逃がしたりする事件が全国的に増えており、愛好家のモラルが厳しく問われている。筆者にはなぜそんな危険な動物を飼いたがるのか理解できないが、どうしても飼いたいなら最大限の注意を払うべきだし、それができない飼い主は取り締まるべき。危険動物や絶滅危惧種を飼う場合における銃刀法なみの厳重な登録制度と、管理を怠った場合の厳しい罰則を用意してほしい。

琵琶湖に伝説の肉食猛獣魚
ピラニアは実在した!!



文◎大塚 祐希

1968年生まれ。広告代理店などでコピーライター、プランナーを経て、1995年、大塚祐希事務所を開設。現在は執筆活動の枠を雑誌や機関紙などにも広げ、そのジャンルは国内外の文化や時事問題、スポーツ、サイエンスなど、多岐にわたる。最大の関心事はなぜか不老不死。
HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部 ビジュアル コミュニケーションデザイン学科卒。1991年よりフリーとして活動し、1998年には「QUATRE ILLUSTRATION」を結成。オフィスは京都の北山から琵琶湖の湖畔に移し、様々なメディアのイラストを手掛けている。
HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>